

平成 29 年度技能伝承に取り組む企業の好事例発表及び意見交換会について

1 日 時 平成30年1月17日（水）14:00～16:00

2 会 場 翠山荘 2階カトレア（山口県山口市湯田温泉3丁目1-1）

3 参加者 事例発表者：1名、パネリスト：5名（うち1名は事例発表者）
企業からの参加者：13社18名

- ・ 司 会（コーディネーター） マニワコンサルタント 馬庭 龍二
- ・ 技能伝承好事例発表企業 有限会社砂田瓦工業 砂田 勝昌
- ・ 意見交換 パネリスト 有限会社三戸窯業 三戸 保志
カワノ工業株式会社 井川 秀樹
有限会社広橋瓦工事店 廣橋 学
株式会社磯部公 恵良 正明

4 技能伝承に取り組む企業の好事例発表

好事例発表 有限会社砂田瓦工業
代表取締役 砂田 勝昌 氏
「国指定重要文化財大照院本堂修復工事に係る
伝統的なかわらぶきの技能の伝承について」

萩市にある毛利家菩提寺「大照院」の4年にわたる本堂修復工事の概要説明が、瓦工事の細かい作業工程をスライドで示しながら行われた。

建立当初の技法や後年の修理内容等を調査し、できる限り当初の状態に復元するよう工事を進めた。県内では重要文化財級の寺社仏閣の修復工事自体がほとんどない状況であり、それにふさわしい工法や技法がわからなかった。40年前に本葺き屋根に取り組んだ際、他県（岐阜県）の業者に指導をお願いし、様々な手法を伝授してもらったことが今に繋がっている。

昔はねじれのある瓦が多かったが、神社仏閣ではそのような瓦が必要であることもよくわかった。

県内で対応できる技能がなければ、他県から技能者を呼べば新しいことも学んでいける。いろいろな知識を吸収しようとする姿勢が重要である。

【好事例発表の様子】



5 意見交換（パネルディスカッション）

「技能伝承と人材育成をどう進めていくか」についてパネリストから次のような意見が出された。

- ・文化財が多くある地域であるが、修復に関してはわからないことが多かったので、復元工事を専門に行っている同業者の技能者（県外）を招いて、10年くらい仕事を一緒にする中で様々な技能を教わった。わからないことがあれば、誰かから学ぶ、教えてもらう積極的な姿勢が大切である。
- ・地域性もあり山口県の場合は伝統的な技能を必要とする物件が少ないし、社寺を専門に行う業者もない。この仕事は真剣に取り組めば面白いし、日々いろいろな疑問もでてくると思う。わからないことは常に聞き、考えることで成長していける。流れ、手順を考えながら、現場で繰り返しやっていくことが大切である。頭で理解していないと仕事は進まない。現場に入る前に下準備をすること。そのために7時出社、8時に現場と言っている。
- ・瓦は1400年の歴史があり、作ったものが残る仕事である。向上心を常に持つことが大切であり、気候風土等を加味して、また心を込めて仕事を進めるよう日々社員に伝えている。
- ・現在寺社仏閣の仕事はほとんどない。新規採用に力を入れている。即戦力とするために、入社したらすぐにかわらぶきについて叩き込む。自分で考えさせ、答えさせ、違っていたら教えるの繰り返しである。技能検定にもチャレンジさせている。20代前半で班長（現場の責任者）になる者もあり、それがやりがい、目標になっている。本葺きなど、伝統的な技能の必要な現場がある時には、若い者に見せ、さわらせ、やらせている。
- ・以前京都の訓練校に行っていた時は、現場に行っても瓦を割ることだけで、施工自体はしていない。今は、下積みをして覚えるというやり方は受け入れてもらえない時代になった。工事の際、経験の少ない人をメインにし、経験者をアドバイザーとしてつけて一緒にやらせている。現在は本葺きや入母屋の物件はなかなかないので、どうすれば伝統的な技能を体験する場を提供できるかを考えている。補修工事ができた時、その機会を捕らえて若い人に仕事をさせれば、技能の伝承ができると思う。

また、社会人としても成長するよう、マナー教育や職長教育を行っている。

- ・技能グランプリに選手を送り出してきた。山口県はかわらぶき職種へは第4回から派遣をしている。第7回～10回に、当社の社員を挑戦させ、第10回では5位入賞を果たした。選手を指導するため、いろいろな所へ情報収集に歩き、奈良や姫路の職人に教えを請うた。寺社仏閣の瓦の勉強もし、選手の指導も行った。このときに学んだ技能や知識を活かし、地元の寺社仏閣の仕事をしてきた。改めて思うことは、かわらぶきは奥の深い仕事、職人冥利に尽きるということである。現在1・2級の資格を持った社員が18名いるが、どこに出しても恥ずかしくない職人に育てたと自負している。
- ・山口県のかわらぶきの技能のレベルアップを図るためにはどうすればよいかを常々考えている。そのひとつとして、かわらぶき職種のすそ野を広げ、技能士が増えることで全体のレベルアップも図れることから、技能士の資格取得の応援のため、平成26年度から組合主催で技能向上研修会を開催している。企業の垣根を越えてマンツーマンで指導している。受講者の熱心さと技能習得の速さに驚かされる。

【質疑応答】

Q：若い人が7時といわれてその時間に来るのか？どのように指導しているのか？

A：7時10分前には来ている。まず掃除をする。先輩が先にやっていたら、自らが率先してやるように指導する。

Q：定着率はどうか？

A：5年たったら独立する者もいる。それは仕方がないし、独立するということは、技能の伝承ができたと考えている。

Q：20代（10年程度）で班長ということだが、指導力も必要となる。それをどのように教えているのか？

A：まず、挨拶ができない者は無理。人としてのあり方を教えている。

Q：かわらぶきに関しては物件が少ないようだが、技能をどのように指導するのか？

A：一般住宅での仕事をきちんとこなせるようにする。

Q：自分に必要のない余計なことは覚えられない風潮はないか？

A：私が学んだ師匠は最先端と伝統的な技能を併せ持った人であった。その時の経験を社員に伝えている。新しいことも覚えていくよう指導する。そうしないと自分が損をする。

Q：1400年の歴史のある技能をどう伝えていくのか？

A：美しさは誰が見ても評価できる。かわらぶきの仕事は屋根に上って行すが、見るのは下からである。下から見てどうかを確認することが大切だと常々言っている。直線もカーブのある屋根も基本的なことができていると美しい屋根とはならない。

【意見交換会の様子】



6 全体総括

事例発表は、山口県では数少ない寺院の修復工事、しかも本瓦葺き工事ということで、参加者が一様に工法に興味を持って聞いていた。特に伝統的建築物の現場での技能伝承が難しい環境にあるが、かわらぶきの基礎技能は、通常の建築物件でも十分習得できると思われる。各自が、技能を自分のものにしようとする意気込みと現場の環境づくりが何より大切である。

業界の様々な立場での仕事に対する考え方、取り組み方なども非常に参考になったようである。